資 料 2

アッケシソウ保護増殖整備事業について

教育委員会生涯学習課
海　事　記　念　館

アッケシソウ保護増殖整備事業について

1　今後の方向性について

アッケシソウの人工栽培事業は、最終的にはアッケシソウの育つ環境を守り、育てるという、野生の保全に繋がっていく事業であると捉えており、町民にアッケシソウが理解され、さらには町外から訪れる観光客の興味関心につながることが大切である。

（1）アッケシソウの保存と活用の目的

厚岸町の名前を冠した植物“アッケシソウ”を野生で保全すること

（2）方法

A．自生地（厚岸湖岸）における対策

B．自生地以外（造成地等）の土地を活用した対策

（3）昨年度までの経緯

専門家（北方環境研究所神田房行所長、東京農業大学中村隆俊准教授）や釧路湿原の再生事業やその他環境整備事業に精通している環境コンサルタント(株)から人工栽培の可能性と生育条件等の助言を得て、栽培候補地を検討しチカラコタンとした。

2　今後のアッケシソウ栽培事業についての構想・計画

【令和元年度】

○事前調査（水質調査など）

・アッケシソウの人口栽培地として現在検討している候補地（チカラコタン）が適地かどうかを判断するため、東京農業大学中村隆俊准教授による事前調査（地下水の塩分濃度・地下水位など）を実施（５月から11月）

【令和２年度】

○基本計画設計（概算委託料：4,430千円）

・今年度の事前調査の結果を踏まえ、候補地が栽培に適しているという結果が出た場合、中村准教授の指導を仰ぎ、候補地の測量や厚岸湖の潮位調査などの基本設計を発注

【令和３年度】

○実施設計（概算委託料：1,338千円）

・基本設計に基づき、実施設計を発注

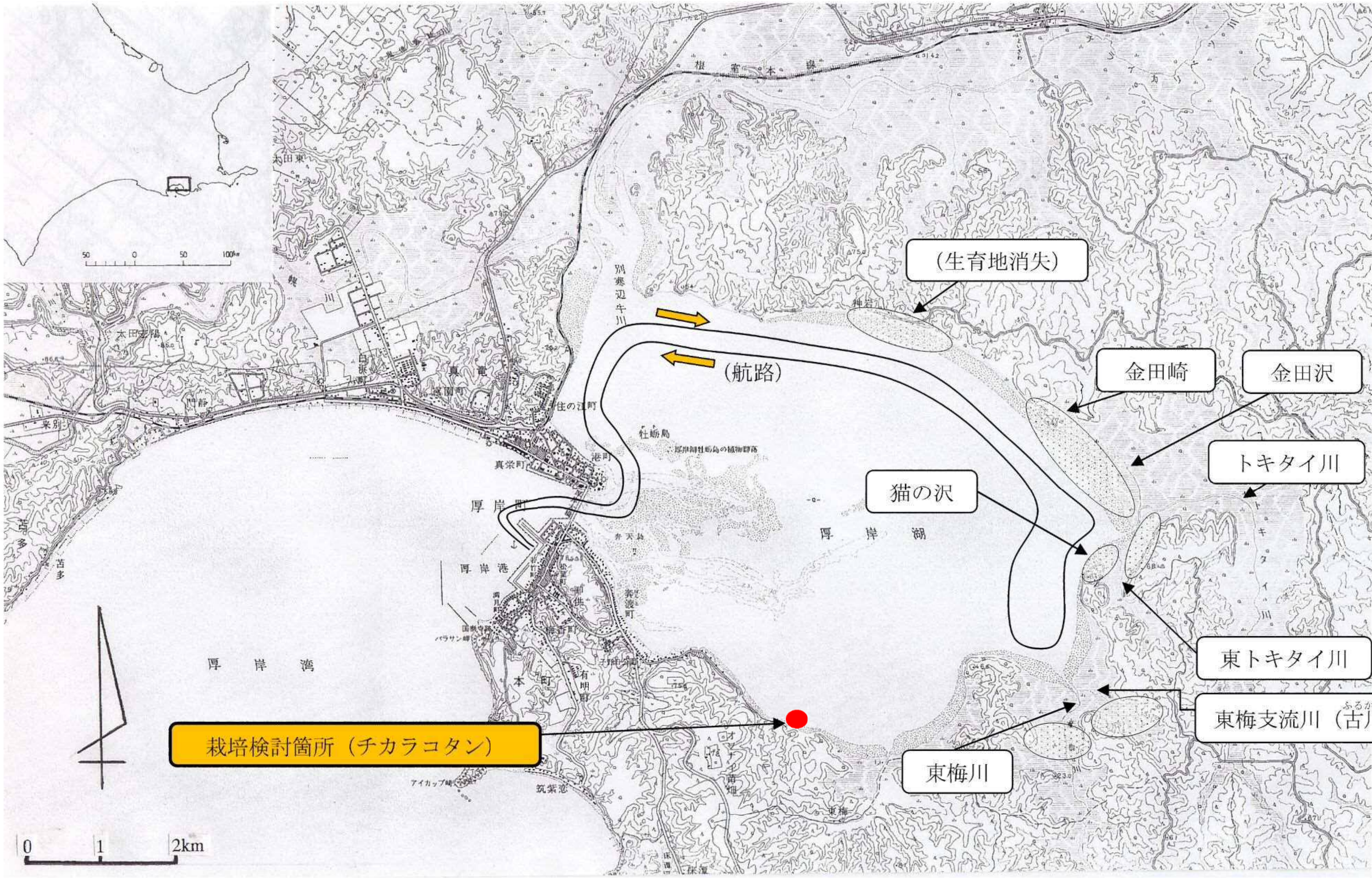
○試験栽培地造成工事（概算工事費：2,750千円）

・実施設計に基づき、栽培地の造成工事を発注

・想定される工事内容

「海水を流入させる設備」「沢水の流水を防ぐ水路」「区画部分の整地」等

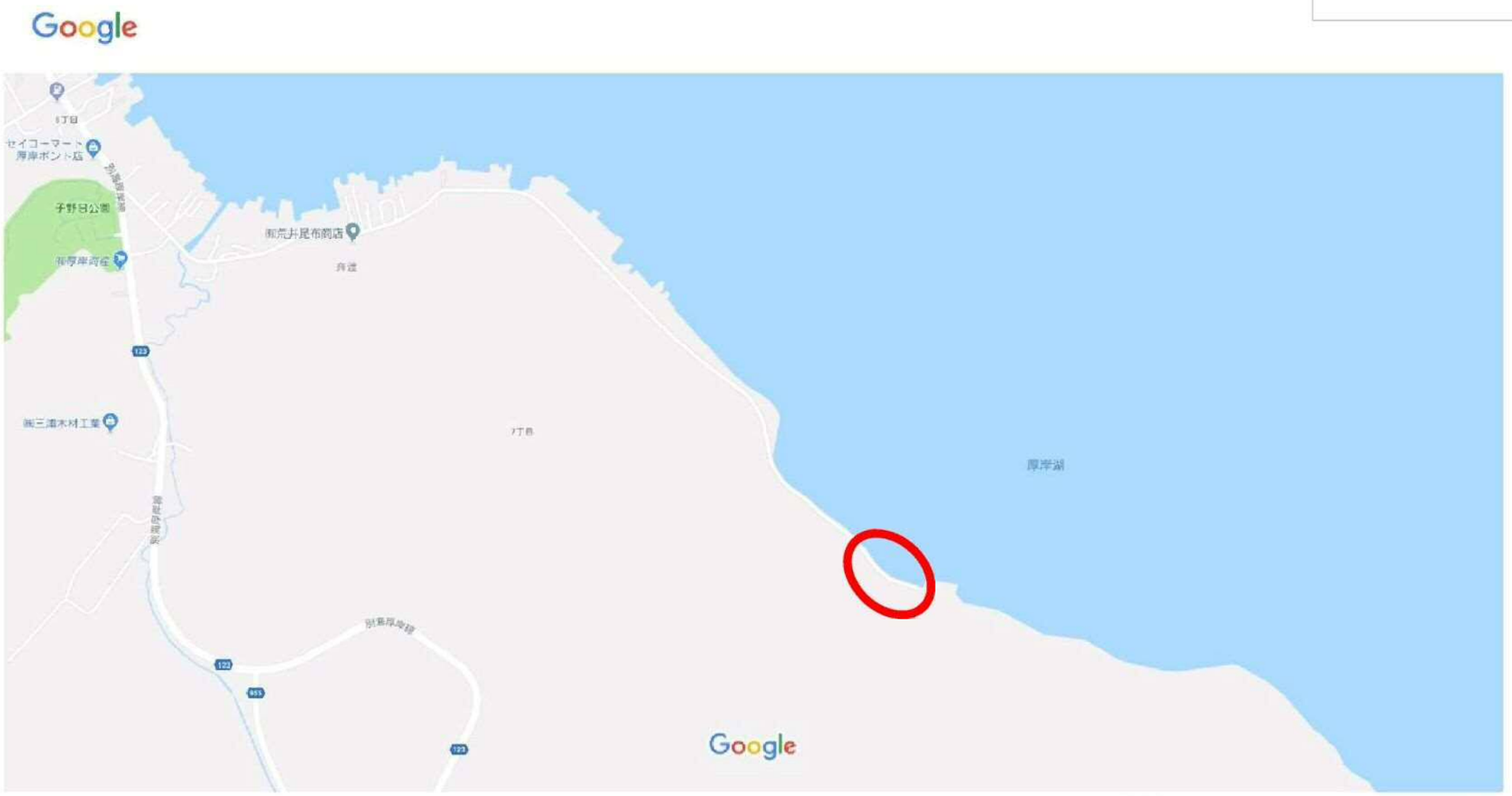
・工事竣工後には種を蒔き、翌年から生育する計画である。また、当該栽培地は、民有地であるため年間10千円程度の借上げ料を要する。



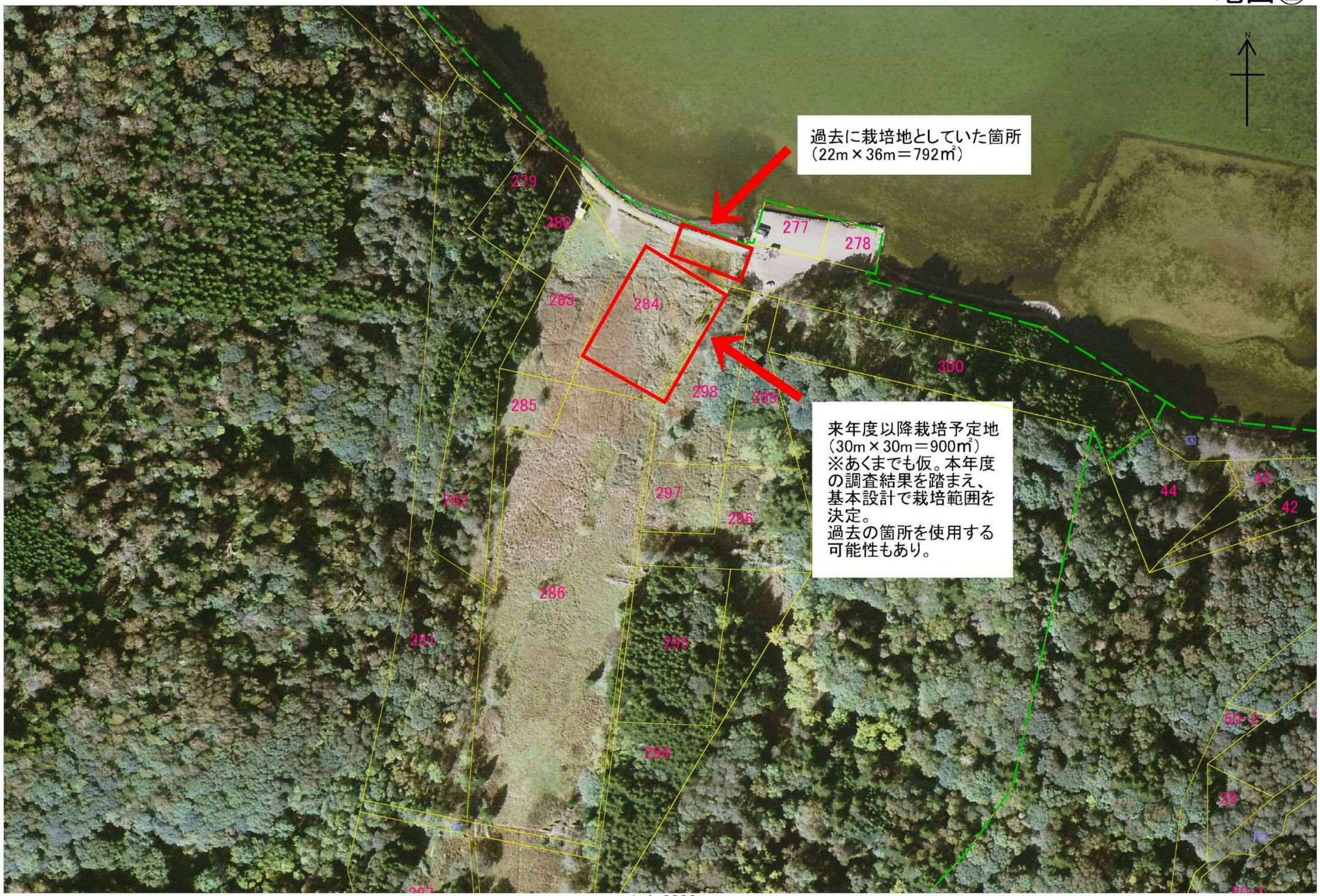
（生育地消失）
（航路）
金田崎
金田沢
トキタイ川
猫の沢
東トキタイ川
東梅支流川（古川）
東梅川
栽培検討箇所（チカラコタン）
厚岸湖
厚岸湾
厚岸町
0
1
2km

・アッケシソウ試験栽培予定地・・・チカラコタン地区の個人が所有している土地を借り、
栽培予定。詳細については、地図２を参照。

地図①



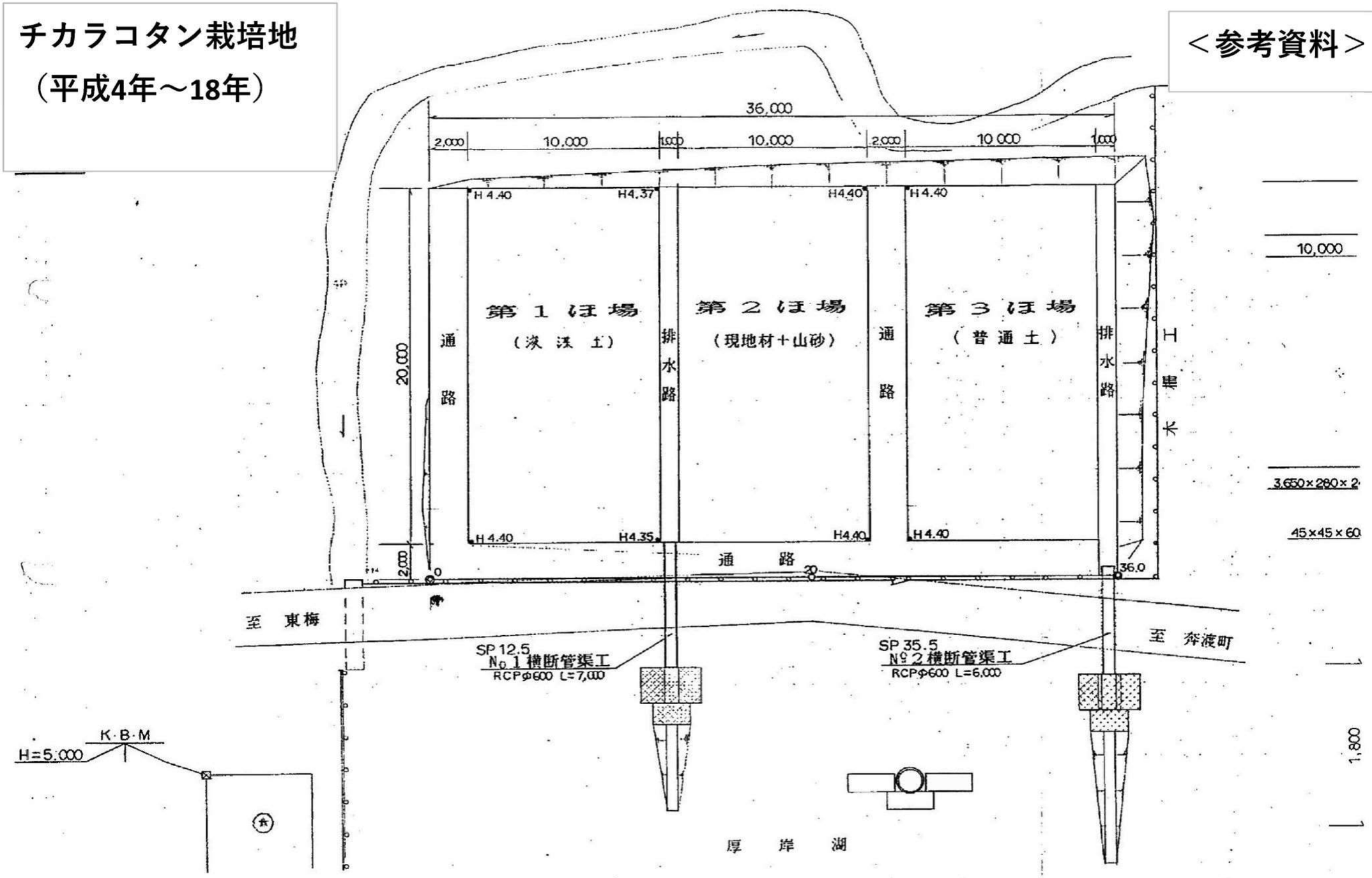
地図②


過去に栽培地としていた箇所
（22m×36m＝792㎡）
来年度以降栽培予定地
（30m×30m＝900㎡）
※あくまでも仮。本年度の調査結果を踏まえ、基本設計で栽培範囲を決定。
過去の箇所を使用する可能性もあり。
279
280
277
278
283
284
285
298
299
300
282
297
296
44
43
42
286
281
295
294
50-2
29

1 / 2000

チカラコタン栽培地
（平成4年～18年）

＜参考資料＞



<参考資料>

■これまでの経過

アッケシソウは、明治24年、発見地に因んで北海道大学宮部金吾博士により名付けられ、「厚岸湖牡蠣島植物群落」の中の一種として、大正10年に国の天然記念物に指定された。その後、地震や地盤沈下等の自然環境の変化に伴い、牡蠣島は水没し植物群落の回復が見込めないことから平成6年に指定解除となった。その際、当時の文化財審議会からアッケシソウについては町の名が付いた唯一の植物なので、今後とも保護に務めるよう提案があった。

その一方で、厚岸町教育委員会では、昭和53年から約20年間継続して厚岸湖岸のアッケシソウ分布調査を実施してきた。これにより、金田崎地区、金田崎～トキタイ川右岸地区、トキタイ川左岸～猫の沢地区、猫の沢～東梅川右岸地区、東梅川左岸～東梅地区にかけてアッケシソウが分布していることを確認した。また、北海道教育大学釧路校神田教授（当時）等により平成13年から4年間実施された植生調査でも同様な分布状況が報告されている。

現在は、平成26年度より、隔年にて調査を実施しており、直近では、昨年（平成30年）10月17日に実施し、その生育状況の把握に努めているところである。若干ではあるが植生変化を生じている箇所や他の植物の繁殖、地形の変化など、いくつかの不安要素も確認されている。

また、アッケシソウの人工栽培も実施してきた。

■厚岸湖岸調査結果の推移

①平成19年～22年：金田崎地区の分布調査を実施

湖岸汀線の堤防状に発達した部分が浸食によりに一部決壊し浸水域が増加していることと、イネ科やカヤツリグサ科等の他の塩性植物の繁茂によりアッケシソウの生育分布が減少し、生育不良となっていた。

以降は平成26年度より隔年にて調査を実施

②平成28年度の調査結果

調査ヵ所：厚岸湖岸の３箇所（a. 金田崎―金田沢周辺、b. 東梅川河口（右岸・左岸）地区、c. 猫の沢～トキタイ川左岸地区）

各地域でアッケシソウの生育は確認しているが、湖岸縁の湿地の形状が変化していたり、天候により、調査確認できなかった地点もある。

平成26年度と28年度を比較すると、その植生に大きな変動はなかったものの、若干ではあるが植生変化を生じている箇所や他の植物の繁殖、地形の変化など、いくつかの不安要素も確認されている。

③平成30年度の調査結果

調査ヵ所：厚岸湖岸の２箇所（a. 金田崎―金田沢周辺、b. 猫の沢～トキタイ川左岸地区）昨年度調査した東梅川河口（右岸・左岸）地区については、天候の影響で調査できなかった。

ここまでの調査と比較し、その植生に大きな変動はなかったものの、若干ではあるが植生変化を生じている箇所や他の植物の繁殖、地形の変化など、いくつかの不安要素も確認されている。

■人口栽培の推移

①昭和56年

厚岸湖岸トキタイ地区へ移植を開始し、昭和57年から郷土館前庭での試験栽培

②平成4年

チカラコタン地区での試験栽培へと進むが、チカラコタン地区については、沢水の流入や土壌改良が難しかったこと等で思わしい結果が得られなかった。

③平成18年

上記の状況を打開するとともに、町民や観光客が訪れやすい市街地の一画（港町試験栽培地）で試験栽培（１区画（300㎡））を開始し良好な結果が得られた。

④平成19年

区画を4区画（計1,200㎡）に増やし栽培を行った（造成は建設課、浚渫土搬入は町内業者協力）。

この年は前年度（平成18年）生育の良かった場所は生育不良となったが、新たに造成した３区画については、順調な生育であった。

⑤平成20年

雑草の繁茂が目立ってきたため、教育委員会職員の協力を得て雑草駆除を実施したが、海水散布の時間が思うように取れず、雑草が繁茂する中でアッケシソウが生育しているという状況だったため、平成21年度に町内業者の協力を得て浚渫土の嵩上げを実施した。

⑥平成22年

土壌入れ替えにより生育が順調に進むものと思われたが、海水撒布及び雑草駆除の回数が少なく土壌も酸性を示していたため４区画とも生育は少なかった。

⑦平成23年

土壌分析で土壌が酸性を示している結果を踏まえ、条件を変えながら消石灰による中和及び施肥を実施した。消石灰及び肥料を投入した区画が一番生育が良かったが、海水撒布及び雑草駆除の回数が少なく、全体的に雑草の繁茂が著しかった。

⑧平成24年

平成23年の土壌分析により、中性を示した一区画と生育が順調だったもう一区画の計２区画で栽培を実施したものの、全体的に雑草の繁茂が著しくなった。

港町の栽培地については雑草の繁茂が著しく、駆除することが困難なことや、海水撒布のポンプアップに多大の労力や時間を要するため、継続栽培は困難と判断し全面休耕とした。

⑨平成25年度

海事記念館前町民広場でプランター16個による試験栽培を実施。

各プランターは、浚渫土・黒土、堆肥投入・堆肥未投入、海水・水道水・水道水で希釈した液肥など条件を変えて栽培した。

生育結果は、土壌及び水質では余り変化が見られず、堆肥の有無や液肥の有無によ

り生育が大きく左右されることが判明し、密集すると枝の張りが少なくなるため、適度の間引きが必要であることが推測された。

⑩平成26年度以降

前年度の結果を受け、引き続き町民広場でのプランターによる試験栽培を継続して実施することとし、以後平成30年度まで、プランター数を増やしながら試験栽培を実施している（平成30年度はプランター40個）。

⑪郷土館前の栽培地（約6.5㎡）

栽培面積が狭く郷土館敷地ということもあり、雑草駆除や海水散布が頻繁に行えるため管理がしやすく、毎年春先に耕運・播種し、秋に種子採取を行っている。ここ数年は土壌分析でもpHが中性を示しており、生育状況は良好に推移している。

しかし、以上のように長年取り組んできたものの、アッケシソウの種の採取や消滅を防ぐことを第一義にしてきたことにより、広く町民や観光客にＰＲする点では不十分であると言わざるを得ない状況にあった。